神戸・南京をむすぶ会　12月集会
中村平さん講演会
「台湾高地先住民との関わりから考える脱殖民化」

日本は台湾を５０年間、殖民地支配・統治しました。私が通った北部山地の先住民たちは、１９１０年の日本軍警との戦争以降、実質的な日本の統治下に入ります。この間、殖民主義と脱殖民化（Colonialism and Decolonization）の議論も世界的に進展しています。他者の主体性を否定してきた殖民主義の歴史を、人類がいかに乗り越えられるかが課題です。

今回のお話では、私が台湾高地の先住民集落で聞き書きした経験から、近代化のなかの戦争や殖民暴力の問題について考えます。同時に蔡英文総統の先住民族への謝罪や、先住民自身による歴史を取り戻す運動についても取り上げます。また、現在私が暮らす広島における平和言説にも触れ、原爆投下の「あの日がそれまでの平和を奪った」とする認識が覆い隠すものを明らかにします。「８・６」のみを中心化する言説は、日本殖民主義の暴力の展開を見えなくさせます。加害と被害の輻輳性をつないで考える、脱殖民化の思想ー運動が求められているゆえんです。

帝国を名乗った日本国家と社会の脱殖民化について、今回は台湾高地先住民への聞き書きから思考したいと思います。

（※台湾先住民は中国語で「台湾原住民」としてその正式名称をかちとってきましたが、日本語における「原住民」は殖民主義と密接な関係において使用され、現在もそれが克服されていないという認識から、今回のお話では「先住民」の語を使用します。）（中村平）

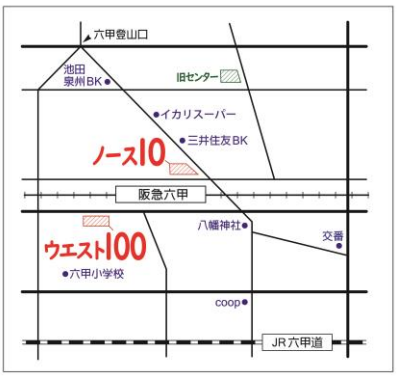
＜講師紹介＞

広島大学人間社会科学研究科教員の中村平さんは、広島のみならず、京都、北海道、そして韓国、台湾、米国、アオテアロアニュージーランドなど行く先々のフィールドで、ご自身の問題意識を深め、発信されておられます。「神戸・南京をむすぶ会」では2018年、南京、廠窖（しょうこう）、常徳の旅でご一緒しました。また、復員した日本兵のPTSDの問題にもかかわっておられます。今回は中村さんが青年期を過ごした台湾と、現在お住まいの広島で見聞き、感じ考えられたことを語ってくださいます。２冊の本は中村平さんの著書『植民暴力の記憶と日本人』、共著『記号化される先住民／女性／子ども』（宮内陽子）

■日時　2023年**12月20日(水)午後6時30分～8時30分**

■会場　神戸学生青年センター「ウエスト100」2階ホール
（阪急六甲駅下車、線路南を西へ100メートル）
〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019

■参加費　１０００円
事前申し込みは不要です。当日、会場でお支払いください。



主催：神戸・南京をむすぶ会
（代表：宮内陽子、副代表：門永秀次、林伯耀、事務局長：飛田雄一）
〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22　神戸学生青年センター内／
TEL 078-891-3018 FAX 078-891-3019／
ホームページ　https://ksyc.jp/nankin/　e-mail　hida@ksyc.jp

後援：神戸学生青年センター